

教科の目標

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方はたからせ、見通しを持って観察、実験を行うなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり身に付ける。
 (1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につける。
 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
 (3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

学年の目標

第1分野：物質やエネルギーに関する事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を身につける。
 第2分野：生命や地球に関する事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を身につける。

評価の観点

月	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4 5 6	化学変化と原子・分子	化学変化を原子や分子のモデルと関連付けながら、物質の成り立ち、化学変化、化学変化と物質の質量を理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。	化学変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連付けてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化やその量的な関係を見いだして表現している。	化学変化と原子・分子に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
7 9 10	生物の体のつくりとはたらき	生物の体のつくりと働きとの関係に着目しながら、生物と細胞、植物の体のつくりと働き、動物の体のつくりと働きを理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。	身近な植物や動物の体のつくりと働きについて、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、生物の体のつくりと働きについての規則性や関連性を見いだして表現している。	生物の体のつくりと働きに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
10 11 12	地球の大気と天気の変化	気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、気象観測、天気の変化、日本の気象、自然の恵みと気象災害を理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。	気象とその変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、天気の変化や日本の気象についての規則性や関係性を見いだして表現している。	気象とその変化に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
1 2 3	電流とその利用	電流、磁界に関する事物・現象を日常生活や社会と関連付けながら、電流、電流と磁界を理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。	電流、磁界に関する現象について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、電流と電圧、電流の働き、静電気、電流と磁界の規則性や関係性を見いだして表現している。	電流とその利用に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評価方法		定期テスト、課題プリントなど	定期テスト、授業の様子、課題プリントなど	ノート、プリント、ふりかえりシートなどの提出物・授業の様子（粘り強い取り組み）、定期テスト

学習の進め方

・自然の様々な事物や現象について、実験や観察などを通して追究し、規則性や法則性を探し求める力やそれを活用する力を伸ばすことを意識して学習を進めていく。また、そのような力を伸ばすために自然の事物や現象についての理解や実験や観察等の技能を身につける。
 ・授業で活用したプリント、ノート等を用いて家庭学習で復習を中心とした学習を行う。単元ごとの振り返りを基に、得意分野の向上と苦手分野の克服をより意識して、ワーク等に取り組む。